

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	福井県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	朝日町立朝日東小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	3	3	2	2	3	1	16	26
児童数	74	84	83	71	72	83	3	470	

研究の概要

1. 研究主題

共に学び、高め合いながら、確かな力をつける子の育成 ~算数科を中心に~

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

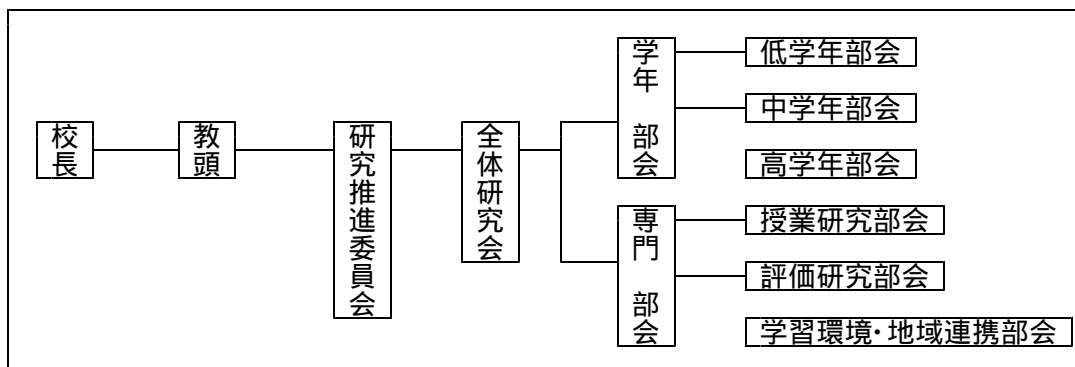
<p>全学年・算数 低学年で算数の楽しさ、学ぶ喜びを十分に味わわせる。中学年ぐらいから、児童の理解の状況に差が出やすくなるためコース別学習を取り入れることが、妥当であると考えられる。学力向上に向け、学年間で連携をとりながら全校体制で取り組む必要があると考える。</p>

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ「共に学び、高め合いながら、確かな力をつける子の育成」 ~算数科を中心に~</p> <p>研究の見通し 分かる喜び、共に学ぶ楽しさを味わえる授業をめざす</p> <p>研究の内容・方法 ・指導体制と共に学び合う場の設定の工夫 ・指導と評価の一体化 ・個に応じた指導のための教材の開発</p>
--------	--

平成16年度	<p>テーマ「共に学び、高め合いながら、確かな力をつける子の育成」 ~算数科を中心に~</p> <p>研究の見通し 考える筋道を大切にしたい授業をめざす</p> <p>研究の内容・方法 ・指導体制と共に学び合う場の設定の工夫 ・指導と評価の一体化 ・個に応じた指導のための教材の開発 ・考える筋道を大切にしたい指導過程 ・主体的学習法についての研究 ・算数的活動の充実</p>
--------	--

(3) 研究推進体制



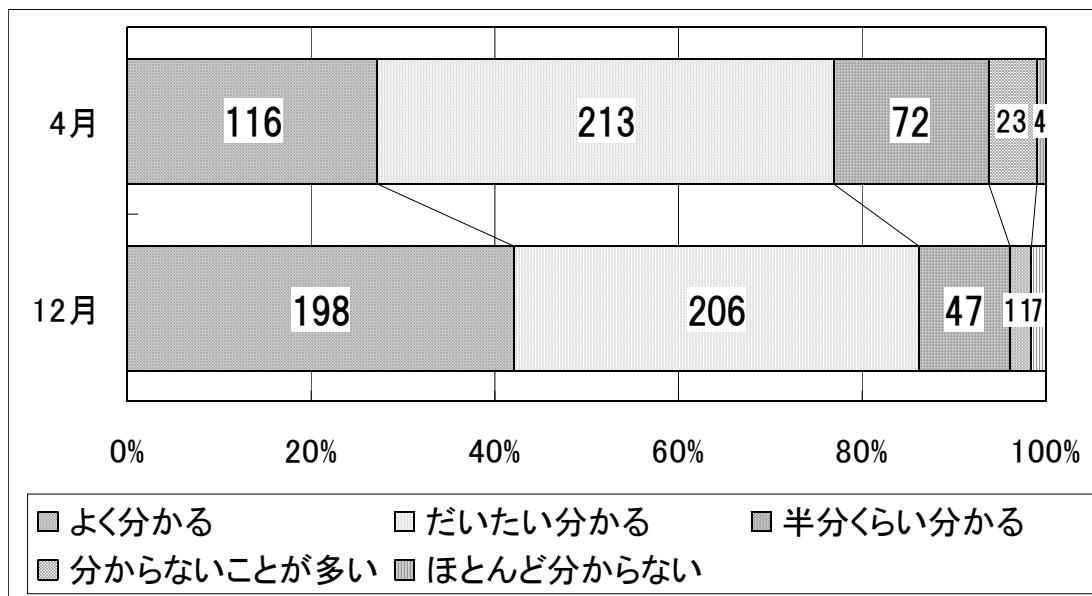
平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

学力・意欲の向上

市販テストをもとにした4月からの単元ごとの得点推移からは、学力の向上が見受けられる。授業に取り組む様子やアンケートを見ても学習内容が分かるようになった児童が多く、積極的に考え共に学ぼうとする態度が身についてきた。

<「算数の授業は分かるか」についての全校児童へのアンケートより>



補充的な学習・発展的な学習の場の充実

自分の力がどこまでついたかを知り、自分の課題を持って補充的な学習や発展的な学習に取り組んだ。それによって児童の学習意欲を高めたり、つまずきを解消したりすることができた。それが児童の自信につながっていった。

教師間の指導の協同

全体的な取り組みを通して開かれた学級作りが可能になり、教師間の指導における協同性を構築することができた。

多面的な児童理解

複数の教師が学年全体を指導しているので、より客観的な評価をすることができ多面的な児童理解が可能になってきた。

学校と家庭との連携

保護者に対する学校解放やフロンティアだよりの発行、意識調査、ほのぼのデーの推進などによって、学校と家庭が一体となって児童を育てていこうとする意識が高まった。

2. 今後の課題

きめ細かな指導の研究、実践

T・T指導や習熟度別指導など、少人数指導が効果的であることが明らかになった。しかし、最も効果がある手法の選択については教材や児童の状況に応じて、指導を見極める必要がある。今年度の実践をふまえ、さらに、指導体制の工夫、評価を生かした指導の工夫、児童の実態や理解度を考慮した教材、教具の開発を進めることによって、一人ひとりに確かな学力がつけられるよう研究を深めていきたい。

評価法についての研究、改善

評価規準表を利用した評価は、児童の理解度を深く把握できるよさがある。しかし、規準が妥当か、評価法は適切か、評価時間は確保できるかなど、さらに研究、改善していくべきである。

学年間の連携

児童がつまずきやすい教材の指導にあっては、繰り返し指導や教材の工夫などが重要である。このため、個に応じた指導方法や教材開発などにおいて、異学年間の連携を図るなど幅広い取り組みを行いたい。

読み取る力・書く力の育成

問題解決にあたっては、読み取る力・書く力が大きく関わってくる。保護者へのアンケートからも国語科の指導の充実が必要であることを強く感じた。そこで、今後は国語科だけでなく、全教育活動を通して読み取る力や書く力をしっかり育てていく必要があると考える。

説明責任

保護者へのコース別学習に対する意識調査によると、かなりの評価を得ているようであるが、コース選択のしかたなど、コース別学習に対する理解を十分に得ているとは言い難い。フロンティアだよりの内容をさらに充実させ、説明責任を果たしていく必要がある。

学力の診断

単元ごとの市販テストの実施だけでは、1・2学期間の取り組みで、どれだけ学力が向上したかについて正確には把握することができない。今後の取り組みの方向性を見いだすためにも客観的評価を得る必要がある。そこで児童の算数科の実態を客観的に把握し指導に生かすために、学年末に教研式標準学力検査（CRT）を実施する予定である。

学力等把握のための学校としての取組

算数科における観点別の達成度の状況を把握し、今後の取り組みの方向性を見いだすために、学年末に教研式標準学力検査（CRT）を実施する予定である。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 本校では、学期ごとに保護者、児童の学力向上フロンティア事業に対する意識調査を行っている。その結果や日頃の学校の取り組みや子どもの教育活動を広く知ってもらうために「学年だより」や「フロンティアだより」を発行している。また、自由授業参観日を設定し子どもの活動の様子をつぶさに見てもらい、保護者の意見、願いなどを取り入れるようにしている。
- 公開授業 平成 16 年 1 月 29 日

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 ■ 15年度からの新規校 □ 14年度からの継続校
- 【学校規模】 □ 6学級以下 □ 7～12学級
 ■ 13～18学級 □ 19～24学級
 □ 25学級以上
- 【指導体制】 ■ 少人数指導 ■ T・Tによる指導
 □ 一部教科担任制 □ その他
- 【研究教科】 □ 国語 □ 社会 ■ 算数 □ 理科
 □ 生活 □ 音楽 □ 図画工作 □ 家庭
 □ 体育 □ その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 ■ 有 □ 無